

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者主体の生活をゆとりと尊厳を持って、ゆったり・ゆっくと自由に送って頂けるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつも見える場所に理念を張りお互いに、ゆとり・ゆったり・ゆっくとを合言葉にしている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	随時、ゆり苑便りに掲載し家族や地域の人々に理解して頂けるよう努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	共働きのお宅で日中雨が降ってきたときなど、洗濯物を軒下へ入れてあげたり、立ち話などで苑の様子など話したり、地域の情報を教えて頂いたりコミュニケーションを図っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員及び入居者は、地域の道路掃除や行事などに積極的に参加し地域との交流に努めている。	○	ゆり苑行事などにもっと気楽に参加して頂けるよう働きかけていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	援助を躊躇される独居老人の方に対して、職員が話をしたり、気持ちの理解を示す事で入居をしていただき、より安全に安心して生活をしていただける等の取り組みを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価での指摘を繰り返さないように改善に取り組んでいる。前回指摘のあった避難訓練に地域住民の参加や協力を得られるよう働きかけている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑での困難事例を挙げ、出席者の意見を仰ぎながら話し合いよりよい対応へとサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度ゆり苑だよりを持って訪ね空き状況を報告したりまた健康状態の変化に対しその都度連絡している。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居予定者について、居宅支援事業所のケアマネ主催のケース会議に出席し、一緒に検討したことがある。実際に入居した時には両方とも利用には至らなかったが、これからも活用できるよう取り組んでいきたい。パンフレット等も用意している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月刊福祉ニュースやその他の定期購読冊子を回覧したりスタッフ同士動作や態度が虐待に結びつかないよう意識を高め注意しあっている。	○	勉強会などでも言葉使い等サービス業での基礎をしっかり認識していけるよう取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、些細な不安、疑問、お願い事でも話して頂けるよう雰囲気作りに努め十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置、又利用者とスタッフ間での 話し合いの場を月に1度設けている。(結 の会) 他には利用者に運営推進会議に出席 していただき意見など話せる機会を設けて いる。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	月に一度ゆり苑だよりと近況報告の手紙 (写真つき)を同封している。また健康状 態の変化に対しその都度連絡している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、ゆり苑の玄関にもご意見投 書箱を設置している。また家族より聞いた 時はスタッフ間で共有し話し合い納得して いただけるよう対応に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	随時受け付け職員の意見や提案に歩み寄 り、改善へ努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者の状態を考慮し、生活の流れを支援 する為に、これに即したローテーションを 組んでいる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動を最小限にいとめ、異動の前には顔 を覚えてもらうように利用者との交流の場 を多くもってもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等の制限は設けず募集している。また防災、環境整備などスタッフに役割を担ってもらい、ホームの運営に役立っている。勤務もスタッフの希望を聞き入れ趣味や勉強の自己実現の支援もしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等には積極的に参加してもらえるようにし、その為の勤務編成も考慮している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフを増員し、勤務を調整して資格や研修を受けてもらっている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でグループホーム部会を設けホーム同士の視察や交流に努め、お互いに事例発表等を行っている。また研修や会議にも参加している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの変化に目を向け随時話しを聞き、スタッフ同士の交流会や食事会など設けている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	将来の役立つ資格など取得出来るように会話し、各自が向上心を持って働けるように勤務編成を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず面談に伺い、ホームを見学して頂く。情報提供書等をスタッフ全員でよく読み、ご家族からの情報聴取にも時間を作ってもらっている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時に時間をかけて説明を行い、ホーム見学時にも不安のないよう話をよく聴いている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医の指示を仰ぎ、精神科受診の場合、医師の指示にてグループホーム対応かどうか診断をしてもらう。また担当のケアマネージャーと連絡を密に取り、適切な対応に努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族や本人の希望に応じて、レクリエーションや食事の体験をしてもらう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる事は時間がかかろうとできる限り見守りながらしていただいたり、趣味を一緒にしながら職員と入居者は共に支えあって過ごすよう努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方から本人の情報をいただき参考にしながら支援するように努力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への思い、家族から本人への思いや愛情を十分に伝えることが出来るよう支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や外出、ご家族の面会をお願いし、ご家族の許可を得て友人や知人の面会も受け入れている。慣れ親しんだ美容室やスーパーへの買い物等支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	なるべく気の合う利用者同士を同じ席にし、合唱するなどの和を保って会話がはずむようにしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もいつでも遊びに来れるよう伝え、入院等で退居となった元入居者の面会にも行き、葬儀の時にはなるべくスタッフ全員が列席するようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のペースに合わせ思いを重視し、スタッフの都合で業務をこなさない、個々の単位でのケアに努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に今までの生活歴を聴き、家族に書いてもらった生活歴シートや情報提供書をスタッフ全員で周知し、サービスの方向を検討している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者を決め、一人ひとり現状を把握し、プランを管理者や計画作成担当者、スタッフ全員で話し合っ決めて、その都度変更もしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人や家族の要望を聞き、担当者、スタッフ全員で情報を出し合い計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時には必ず2～3週間後に見直しを行い検討する。その後は3ヵ月を目途に評価している。またその状態の変化に応じその都度変更している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成後はケース記録に綴じて、スタッフ全員で目を通し情報を共有し対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、2週間に一度の往診や都度の受診を受け、重度化しないように看護師を配置している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアの受け入れや消防の立ち入り検査、小学校や保育園の運動会見学を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネージャーやサービス事業者同士の話し合いにも参加している。	○	訪問看護の利用や地区のデイサービス等の利用支援も行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっている。また包括支援センターの方々とも協働し、指示を仰いでいる。また時折センターの方に相談し、アドバイスをいただいている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとって定期に往診を受けている。また希望や紹介状に応じて他の医師の受診にも同行している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に家族やスタッフと共に受診している。医師の診察も家族の許可を得て共に聴いている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤に准看護師、非常勤に看護師を雇用し、医療活用の支援をしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限り面会し、入院中の情報は病院スタッフや医師から収集している。またかかりつけの医師も入院先の医師連携して早期退院に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	スタッフ全員で話し合い、入居者や家族の希望を確認し医師の指示を仰いでいる。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「出来ること、出来ないこと」を検討し医師に早めに相談しながら変化に備えている。また家族の意思を聞いて個人ごとの対応を決めている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には入居者に納得して頂き、入居後には出来るだけ家族に面会して頂き会話してもらっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の違いを尊重し、さりげない介助や私的な場所での礼儀、入居者の返答能力に応じた質問をしている。また思っている「現実」を否定しないよう心配りをしている。スタッフは守秘義務を徹底している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「〇〇はしますか?」「〇〇してもいいですか?」と問いかけし選択が難しい入居者には「はい」か「いいえ」でも意思表示してもらえようようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気作りに気をつけ、何事にも入居者のペースにあわせるようしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問美容に来てもらっている。また入居者の希望に応じて整髪している。他の美容院へも希望に応じて付き添うようにしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下ごしらえの簡単な作業は手伝ってもらっている。またスタッフは同じテーブルで食事し茶碗におかずを移したり食器を動かさずなどさりげないサポートや介助をしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は現在なし。お酒や飲み物はご家族の希望に応じて提供している。おやつはなるべく手作りにしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、下着やオムツも入居者の心身状況別、昼夜別に使い分けている。また毎日起立訓練・下肢の筋力UPを行い排泄の自立に向けて取り組んでいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前と入浴前にバイタルチェックを行い入居可能かどうか判断。本人の希望を聞きながら時間帯や長さ、回数を決め快適な入浴が出来るよう介助している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩や外気浴を行い軽く運動をしたりと安眠できるよう利用者やスタッフで検討・実行している。また夕方から夜にかけては静かな雰囲気作りを心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、畑の草とりなどホームの活動に参加してもらう。またレクリエーションにて歌のDVD鑑賞や数並べ、計算をしてもらったり広場でおやつをいただくなど楽しんでいる。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している入居者は3名。普段所持していない人も買い物に付き添い介助しながらレジ支払いの場に持って頂く等の支援を行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩やドライブしたり買い物に同行して頂いたり、時にはお弁当を持って車で遠足に行ったりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段は1ユニットごとに遠足や外食、花見など行っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや封筒を買って来て郵便物を出しに行ったり、電話をかける、取り次ぐ等の援助している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも受け入れることを度々話し、また受け入れもしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしない事を理解しているが、家族の要望がある場合のみやむを得ず安全ベルト着用している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的には施錠していない。(夜間のみ施錠している。)		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーを守るため、ドアを閉め、ドアロック、入室の許可など厳守している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない所、見えない所、管理ができるところに保管するよう周知徹底している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフの勉強会やマニュアルに従って取り組んでいる。また委員会を設置し事故分析、防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間スケジュールに項目を入れて訓練習熟している。また消防署の救命研修などにも参加している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者の居る場所避難経路が決められており、避難場所も確保されている。防火訓練を行っており、近所への協力もお願いしている。	○	防火訓練において近所の参加もお願いできればと思ってる。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に説明を行い、また家族の面会時に管理者・ケアマネージャーが説明し対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化やサインを見逃さない見守りを指導し、記録を録るように徹底している。医師の指示された内容はケース記録や連絡ノートを活用している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理はスタッフがやっている。用法・容量について不明な場合は医師・薬剤師に確認する。また看護スタッフに説明を仰いだり勉強会も行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者のケアプランに基づき、便秘予防に留意し十分な水分補給も行っている。また水分チェック表を記入するようにしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	スタッフは必要性を理解し、ケアプランに基づき支援する。必要時には歯科往診・受診同行も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を雇用しており、バランス・量に配慮している。また摂取状況を記録に残し、スタッフ情報を共有している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに従って実行している。また委員会が率先して予防に取り組んでいる。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材業者より配達後直ぐに冷蔵庫に保管している。台所や調理器具は毎日、隔週、週に2度の消毒などマニュアルを作成し実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口に花や植木を飾り、目の前の畑の野菜や季節の花など楽しめるようにしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の両側に居室があり、トイレ・浴室を配置している。壁には殺風景にならないように利用者の作品や飾りつけを心がけている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、冬には畳の間にコタツを設け、好きな場所で過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳を設けているが希望に応じ洋間にもなる。ベットや布団、日用品等は使い慣れたものにし、家具等も自由でありそれぞれ異なる居室になっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に注意し臭いがこもらないようにしている。温度計を各居室やリビングに設置している。また加湿器・除湿機も設けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない平屋造りで、壁やトイレなどには手すりを設け、廊下も直線で死角を作らない構造で、入居者が危なくないようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口には表札を設けている。浴室やトイレの表示もあり、新聞やカレンダーも活用している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スロープを設置して外出しやすくし、ベランダや玄関の外にはベンチを設けてあり、外気浴やお茶など楽しめる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者主体の生活をゆとりと尊厳をもって、ゆっくりゆったりと自由に生活して頂ける様支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビング、休憩室等にゆとり・ゆったり・ゆっくりに理念標語を貼り、常に心で合言葉としている。	○	寄り添う事をモットーにしている。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ゆり苑だよりに記録している。苑の理念である事を知って頂いている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	道路愛護や地域の会合に参加している。又近所の子供達はいつでも苑前でボール遊び等出来る環境を作っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の会合や草取り、道路愛護等積極的に参加する様にしている。	○	ゆり苑行事等に近所の方がもっと参加して頂ける様働きかけて行きたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市役所や民生委員の方々に苑で何か出来る事があればと常に話している。	○	災害時等は非難場所として利用して頂ける様周知したい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎時、評価での指摘を繰り返さない様に改善に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度会議を開き、出席者の意見を充分に聞き入れ、ホームの運営に取り組んでいる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	浮羽ブロック介護サービス事業所連絡会議に出席し市内ホームの視察を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じ家族に説明する様にしているが今の所必要になったケースがない。	○	スタッフ全員がこの制度を理解する様、今後研修をやっていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する委員会を置き、スタッフは常に勉強をし、気をつけている。	○	身体面だけではなく言葉での虐待がない様スタッフ間で話し合い、研修等の参加を促す。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な説明を行い、不安や疑問のある時はいつでも質問出来る環境に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設置している。	○	2ユニット合同での話し合い(結いの会) で利用者の意見を聞く様努力している。 もっと意見が出る結いの会にしていき たい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	スタッフ手書きによるお便りを月一度、苑 での様子や健康状態を知らせています。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはスタッフと話す時間を頂き現状 報告等を必ず行っている。その時家族から の要望等聞いている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	月に一度の合同ミーティングに於いて、職 員より意見を聞く機会を設けている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者の状況・状態を考慮し生活支援をす る為これに合ったローテーションを組んで いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動を最小限にし、常に顔見知りのスタッ フで介護出来る様努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等の制限は設けず募集している。又防災、環境整備など各スタッフの役割を担ってもらい、ホームの運営に役立っている。勤務もスタッフの希望を聞き入れ趣味や勉強の自己実現の支援もしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等には積極的に参加してもらえるようにし、その為の勤務編成も考慮している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフを増員し、勤務を調整して資格や研修を受けてもらっている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でグループホーム部会を設け、ホーム同士の視察や交流に努めお互いに事例発表など行っている。又研修や会議にも参加している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの変化に目を向け随時話しを聞き、スタッフ同士の交流会や食事会など設けている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	将来の役立つ資格など取得出来るように会話し、各自が向上心を持って働けるように勤務編成を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず面談に伺い、ホームを見学して頂く。情報提供書等をスタッフ全員でよく読み、ご家族からの情報聴取にも時間を作ってもらっている。	○	入所前にはショートステイをして頂き、ご本人の気持ちを大切にしておでの入所を言う形が取れたら良いと思う。(体験入所)
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時に時間をかけて説明を行い、ホーム見学時にも不安のないよう話をよく聴いている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医の指示を仰ぎ、精神科受診の場合、医師の指示にてグループホーム対応かどうか診断してもらう。又担当のケアマネジャーを連絡を密に取り、適切な対応に努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族や本人の希望に応じて、レクリエーションや食事の体験をしてもらう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を先生と仰ぎ、趣味を一緒にしながら教えてもらっている。	○	入居者が上位でもなく、介護者が上位でもないホームでありたい。又スタッフ全員もこれを共有し一緒に生活するホームを目指したい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方から本人の情報をもらい参考にしながら支援するように努力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への思い、家族から本人への思いや愛情を十分に伝えることが出来るよう支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や外出、ご家族の面会をお願いし、ご家族の許可を得て友人や知人の面会も受け入れている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	なるべく気の合う利用者同士を同じ席にし、合唱するなどの和を保って会話がはずむようにしている。	○	ユニット間の交流も自由にしが合う者同士の談笑が出来る環境を作っている。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後もいつでも遊びに来れるよう伝え、入院等で退居となった元入居者の面会にも行き、葬儀の時にはなるべくスタッフ全員が列席するようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のペースに合わせ、思いを重視し、スタッフの都合で業務を進めない個々の単位でケアに努力している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に今までの生活歴を聴き、家族に書いてもらった生活歴シートや情報提供書をスタッフ全員で周知し、サービスの方向を検討している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者を決め、一人ひとり現状を把握し、プランを管理者や3カ画作成担当、スタッフ全員で話し合っ決めて、その都度変更もしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人や家族の要望を聞き、担当者・スタッフ全員で情報を出し合い計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時には必ず2～3週間後に見直しを行い検討する。その後は三ヶ月を目途に評価している。またその状態の変化に応じ都度変更している。	○	日々の生活での行動の変化に応じ、家族と話し合いの上、随時変更届を出す様になっている。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成後はケース記録に綴じて、スタッフ全員で目を通すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、2週間に一度の往診や都度の受診を受け重度化しないように看護師を配置している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の受け入れ、ボランティアの受け入れや消防の立ち入り検査、小学校や保育園の運動会見学を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネージャーやサービス事業者同士の話し合いにも参加している。	○	訪問介護の利用や地区のデイサービス等の利用支援も行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっている。又、包括支援センターの方々とも協働し、指示を仰いでいる。また時折伝えた地域包括支援センターの方に相談し、アドバイスを頂いている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとって定期に往診を受けている。また希望や紹介状に応じて他の医師の受診にも同行している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に家族やスタッフと共に受診している。医師の診察も家族の許可を得て共に聴いている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤に准看護師、非常勤に看護師を雇用し医療活用の支援をしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限り面接し、入院中の情報は病院スタッフや医師ら収集している。又かかりつけの医師も入院先の医師と連携して早期退院に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	スタッフ全員で話し合い入居者や家族の希望を確認し医師の指示を仰いでいる。	○	終末期に関し、家族はどう思われているかを少しずつ聞き取りをし家族の希望に添った介護が出来る様スタッフの意識を高めている。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「出来ること、出来ないこと」を検討し医師に早めに相談しながら変化に備えている。又家族の意向を聞いて面会して頂き会話をしてもらっている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には入居者に納得して頂き入居後にはできるだけ家族に面会して頂き、会話をしてもらっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の違いを尊重し、さりげない介助や私的な場所での礼儀、入居者の返答能力に応じた質問をしている。又思っている「現実」を否定しないよう心配りしているスタッフは守秘義務を徹底している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「○○しますか?」「○○してもいいですか?」と問いかけし、選択が難しい入居者には「はい」か「いいえ」でも意思表示してもらえようようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気作りに気をつけ、何事にも入居者のペースに合わせるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問美容に来てもらっている。又入居者の希望に応じて整髪している。他の美容院へも希望に応じて付き添うようにしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等下ごしらえの簡単な作業は手伝ってもらっている。またスタッフは同じテーブルで食事し、茶碗におかずを移したり、食器を動かすなどさりげないサポートや介助をしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者は現在はいない。お酒や飲み物はご家族の希望に応じて提供している。おやつはなるべく手作りにしている。	○	寄り添い介護の折「今一番何がやりたいですか」「今一番何が食べたいですか」等、入居者から聞き取りできる事は実行している。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し下着やオムツも入居者の心身状況別、昼夜別に使い分けしている。又毎日起立訓練下肢に筋力アップを行い排泄の自立に向けて取り組んでいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前と入浴前にバイタルチェックを行い入浴可能かどうか判断。本人の希望を聞きながら時間帯や長さ・回数を決め、快適な入浴が出来るよう介助している。	○	殆んどの入居者が毎日入浴している。毎日でない方でも2日に一度の頻度で入浴し、入浴しない日は清拭を行っている。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩や外気浴を行い軽く運動したりと安眠出来るよう利用者やスタッフで検討・実行している。また夕方から夜にかけては静かな雰囲気作りに心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、畑の草取りなどのホームの活動に参加してもらう。またレクリエーションにて歌のDVD鑑賞や数並べ、計算をしてもらったり、広場でおやつをいただくなど楽しんでいる。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している入居者は3名いる。普段所持していない人も買い物に付き添い介助しながらレジ支払いの場を持って頂く等の支援を行っている。	○	管理の出来ない入居者は小口現金を最小額預り、小遣い帳を作成、月単位で締めを行っている。又家族来苑時には確認して頂きサイン等を頂いている。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩やドライブしたり買い物に同行して頂いたり、時にはお弁当を持って車で遠足に行ったりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段は1ユニットごとに遠足や外食、花見など行っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや封筒を買って来て郵便物を出しに行ったり、電話をかける・取り次ぐ等の援助を行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも受け入れることを度々話又受け入れもしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしない事を理解しているが、ご家族の要望がある場合のみやむを得ず安全ベルト着用している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的には施錠していない。(夜間のみ施錠している)		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーを守るため、ドアノック、入室の許可など厳守している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない所・見えない所・管理が出来る所に保管するよう周知徹底している。	○	包丁の管理は毎食後熱消毒の上、保管箱に入れ本数確認を行っている。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフの勉強会やマニュアルに従って取り組んでいる。また委員会を設置し事故分析・防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットをスタッフ全員が共有し、認識・防止の為の話し合いを随時行う。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間スケジュールに項目を入れて訓練習熟している。又消防署の救命研修などにも参加している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者の居る場所で非難経路が決められており、避難場所も確保されている。防災訓練を行っており、近所への協力もお願いしている。	○	防災訓練において近所の参加もお願いできればと思っている。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に説明を行い、また家族の面会時に管理者・ケアマネージャーが説明し対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化やサインを見逃さない見守りを指導し、記録を録るように徹底している。医師の指示された内容はケース記録や連絡ノートを活用している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理はスタッフがやっている。用法・容量について不明な場合は医師・薬剤師に確認する。また看護スタッフに説明を仰いだり勉強会も行っている。	○	スタッフは薬の内容まで把握出来る様指導している。(まずは担当している入居者の内容だけでも把握する事)
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者のケアプランに基づき便秘予防に留意し、十分な水分補給も行っている。また水分チェック表を記入するようにしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	スタッフは必要性を理解し、ケアプランに基づき支援する。必要時には歯科往診・受診も行っている。	○	毎食後の口腔ケアは全員が実施している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を雇用しておりバランス量に配慮している。また摂取状況を記録に残し、スタッフが情報を共有している。	○	水分量・食事摂取量のチェックは毎日確実に記録に残している。体重測定は月1度実施している。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに従って実行している。また委員会が率先して予防に取り組んでいる。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材業者より配達後直ぐに冷蔵庫に保管している。台所や調理器具は毎日・隔週、週に2度の消毒など、マニュアルを作成し実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口に花や植木を飾り、目の前の畑の野菜や季節の花など楽しめるようにしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の両側に居室があり、トイレ・浴室を配置している。壁には殺風景にならないように利用者の作品や飾りつけを心がけている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、冬は畳の間にコタツを設け好きな場所で過ごせるようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳を設けているが希望に応じ洋間にもなる。ベットや布団・日用品等は使いなれたものにし、家具等も自由であり、それぞれが心地よく過ごす事ができる居室になっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に注意し臭いがこもらないようにしている。温度計を各居室やリビングに設置している。また加湿器・除湿機も設けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない平屋造りで、壁やトイレなどには手すりを設け、廊下も直線で死角を作らない構造で入居者が危なくないようにしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口には表札を設けている浴室やトイレの表示もあり、新聞やカレンダーも活用している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スロープを設置して外出しやすくしベランダや玄関の外にはベンチを設けてあり、外気浴やお茶など楽しめる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族に安心していただける様に、担当者を決めて写真入りのお便りを書き、毎月家族に送り喜ばれている。また、個々のアルバム作りにも取り組んでいる。入居者主体の生活を大事にする為、月1回入居者の会「結の会」を開催し、自己決定を尊重している。